

地区の現況と課題

本地区は、商業施設や医療施設、市役所、教育機関等が集積するとともに、富山地方鉄道やあいの風とやま鉄道とバスを連携する公共交通機関の結節点であり、市の中心市街地として機能している。

これまでも面的整備や道路整備等により安全・安心な居住環境の形成に努めてきたところであるが、北陸新幹線開業に伴い、交流人口が増加したことや民間企業の本社機能一部移転等の本地区を取り巻く環境の変化により、民間企業と連携した居住環境の整備や公共交通ネットワークの利便性の向上、歩行空間の確保等、交通まちづくりへの対応が課題となっている。

また、人口減少に伴う空家、空き店舗の増加や交流拠点となる施設の不足により、中心市街地の活力が低下していることから、次代の本市を担う若年層の人材育成と交流拠点となる施設の整備が必要となっている。



▲ 民間企業が進める住環境整備
「パッシブタウン黒部モデル」



▲ 民間企業と連携した
一般乗合バス「南北循環線」

計画策定プロセス

NPO法人黒部まちづくり協議会 (三日市ワークショップ)

NPO法人黒部まちづくり協議会が5つのワークショップを構成し、市民一人ひとりから始めるまちづくり活動を展開している。中でも、地区内を活動の基盤とする「三日市ワークショップ」では、メンバーが主体となって意見を交わし、イベントの定期的開催（やってみっか市）や、地域の活性化を見据えた都市整備のあり方や活用方策の検討等を実施している。

都市再生整備計画事後評価委員会

これまでの都市再生整備計画の実施過程、課題の達成状況をもとに、今後のまちづくり方策について有識者、住民代表による意見集約を行った。



▲ 三日市保育所周辺土地区画整理事業



▲ NPO法人黒部まちづくり協議会
「やってみっか市」の様子